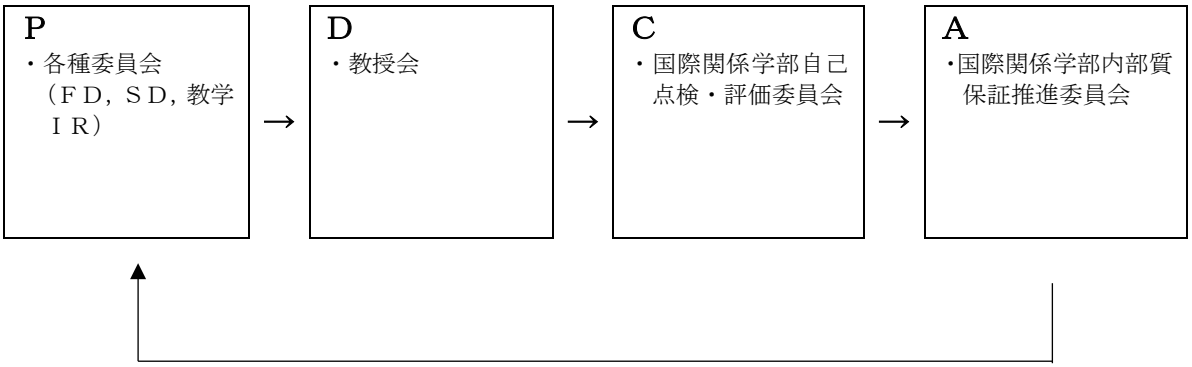
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　国際関係学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係学部は，全学的な「日本大学内部質保証に関する方針」に基づき，教育研究活動の継続的な改善・向上を推進している。これまでの活動として，令和５年度には教学ＩＲ委員会が中心となり，学生の退学傾向に関する詳細なデータ分析を実施した。特に，1年次必修科目である「自主創造の基礎」の単位未修得者と退学率の高い相関関係を特定し，その結果を活用し，令和６年度より対象学生に対する早期面談基準を具体的に見直して実施するなど，学生支援の改善に取り組んだ。また，カリキュラムの質保証を確実にするため，次期カリキュラム改正（令和９年度入学者から）に向けた教育の３つのポリシー及びアセスメント・ポリシーの策定検討も進めている。しかしながら，現状の課題として，これら各委員会（教学ＩＲ，ＦＤ，ＳＤ，自己点検・評価）の個別改善活動の成果が，国際関係学部内部質保証推進委員会による検証，支援，及び改善指示のプロセスを経て，次年度（令和７年度）の活動計画へ有機的に統合され，実効的なＰＤＣＡサイクルが機能しているとは言い難い状況である。特に，学習成果を多面的かつ総合的に測定・把握できる仕組みの構築や国際関係学部内部質保証推進委員会が主体となって改善を促す役割の明確化が求められている。今後の改善に向け，本学部は，国際関係学部

内部質保証推進委員会が検証，支援，改善指示に関する事項を主導する役割を明確化し，システムの有効性及び適切性の向上を確実に行う。特に，ＩＲ分析から得られた具体的な情報を活用し，教育の質保証の仕組みをより有効に機能させるため，データに基づく学習成果の測定・把握に関する具体的な指標を策定し，関連する各委員会と連携しながら，教育課程や学生支援における具体的な改善活動を計画的に実行・定着させるための進捗管理を徹底する。これにより，自己点検・評価の結果を教育研究活動の質的改善につなげるサイクルを確立することを目指す。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

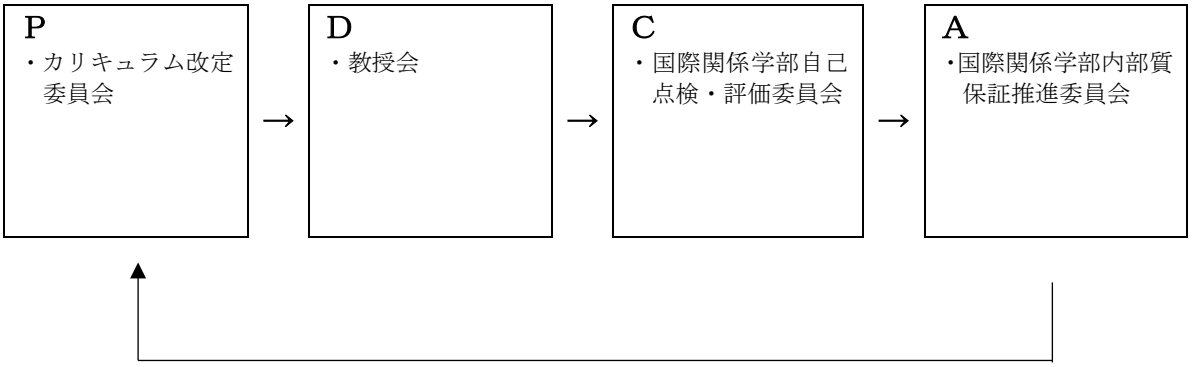
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握について，アセスメント・テストによる一部能力の測定にとどまっており，学位授与方針に示す学習成果の評価として不十分である」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関連することから，例えば，国際関係学部内部質保証推進委員会が主導し，学務委員会や教学ＩＲ委員会と連携して，学習成果を多面的かつ総合的に測定・把握できる仕組みを構築するよう改善が求められる。

提言において，国際関係学部内部質保証推進委員会が，自己点検・評価活動に対する検証，支援及び改善指示を主導する役割と，各委員会との連携体制が不明確である点が指摘されていることから，今後は同推進委員会がＰＤＣＡサイクル全体を主導する役割を明確化し，実効性のある進捗管理体制を確立する。特に，教育・学習の基準（基準４）に関する提言にあるとおり，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した学習成果の測定・把握が不十分であるという課題に対応するため，学部として独自のアセスメント・プランを策定する。この計画に基づき，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に準拠した学習成果の測定目的，具体的な評価指標，及び測定方法（アセスメント・テストやルーブリックの活用など）を明確に定め，教育の質保証の仕組みを実質的に機能させることを目指す。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

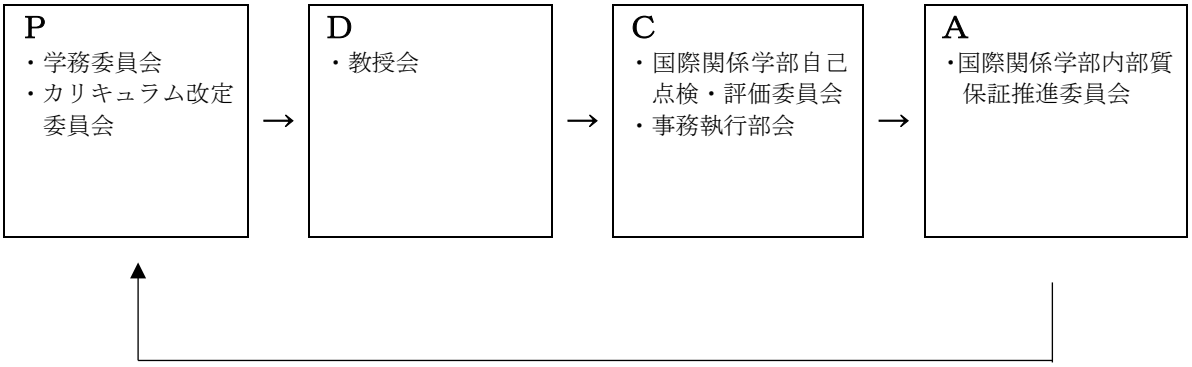
事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係学部では，教育課程及びその内容，方法の適切性について定期的に点検・評価をする仕組みがなく，学務委員会やカリキュラム改定委員会において教育課程（カリキュラム）改定の際に，教育課程及びその内容，方法を検証し，教育課程の改善・向上の参考にしているのが現状である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

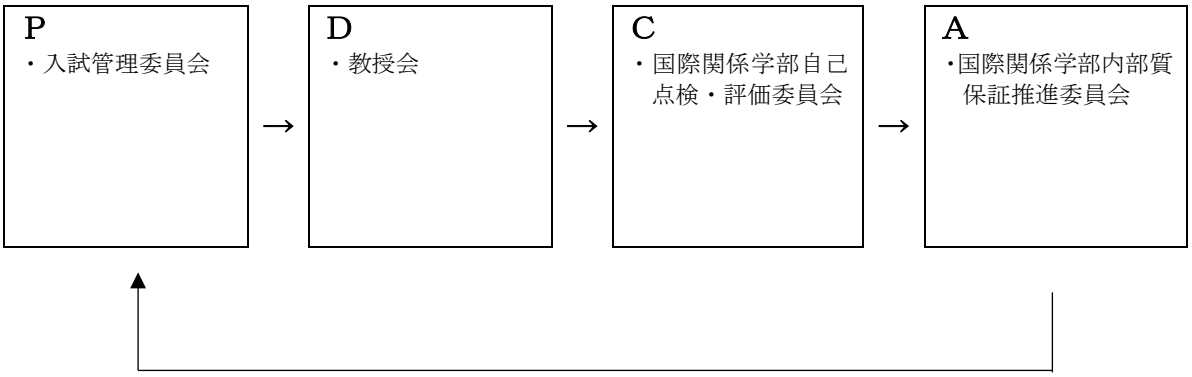
院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

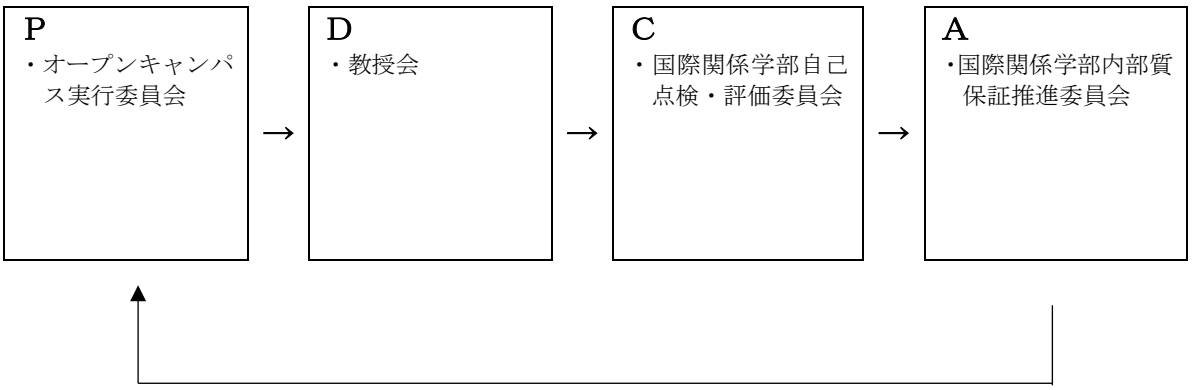
基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【入学者選抜計画，運営確認・入試広報】



【オープンキャンパス】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑲　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【入学者選抜・入試広報】

各年度入学者選抜及び入試広報を入試管理委員会において計画し，教授会に諮り実行，当該年度の入試結果等に基づく改善点・次年度計画等を検討している。

国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

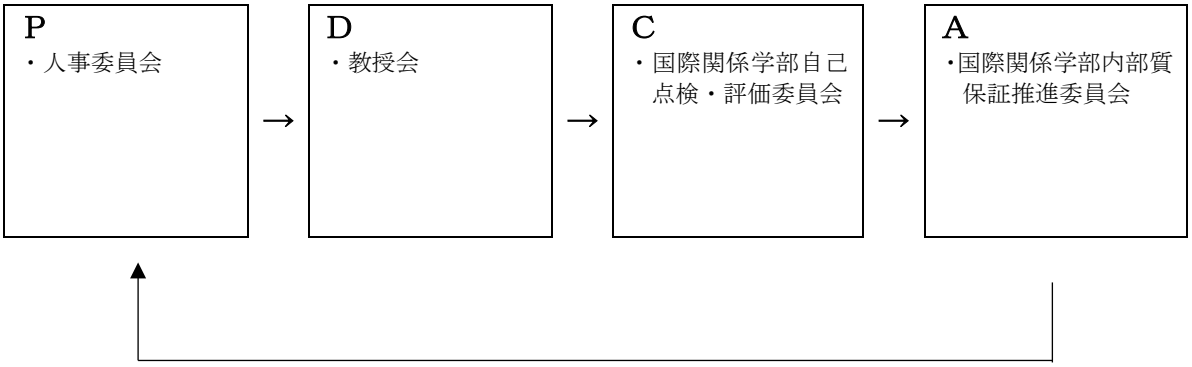
【オープンキャンパス】
　各年度オープンキャンパスをオープンキャンパス実行委員会において計画し，教授会に諮り実行，当該年度の来場者人数及びアンケート等内容について，アンケートについては，来場者アンケートと入学者アンケート及び教員アンケートの３点を実施し，その結果に基づき次年度計画・改善等行っている。また，令和７年度オープンキャンパスより，学生スタッフを新規導入し，学生を前面に出した運営を行ったことで，アンケートにも良い回答が得られている。令和７年度国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係学部では，教員組織の適正な維持を教育研究活動の基盤として位置付けている。人事委員会が，大学設置基準の充足に向けた採用計画の策定（Ｐ）及び公募活動（Ｄ）を行い，その結果について国際関係学部自己点検・評価委員会が点検・評価（Ｃ）を，さらに国際関係学部内部質保証推進委員会が検証・支援・改善指示（Ａ）を行う体制を整備している。しかしながら，令和６年４月１日現在の専任教員数 55 名（基準 56 名）に対し，令和７年４月１日現在では 53 名となり，不足数が拡大している現状が確認された。これは，採用辞退や年度途中の死亡退職という予期せぬ欠員発生要因に加え，人事委員会による公募活動が目標充足に十分な実効性を伴わなかったことを示しており，国際関係学部自己点検・評価委員会等による評価検証結果が次年度の改善に十分に生かされていない課題がある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

一部の学科において，大学設置基準上の教員数を満たしていないため，是正されたい。

【提言（改善課題）】

記述によれば，教職それぞれが「与えられた使命」に基づき協力しながら業務を遂行しており，役割分担については各委員会で一定程度決められているものの，責任の明確化という点では十分に体系化されていないため，改善が求められる。

問題発生時には関係する委員会や部署と連携して対処しているものの，平時の業務における教職間の責任範囲や役割分担が明確化されていないことは，業務の属人化や非効率の要因となる可能性がある。

ガイダンス内容は主に業務説明と注意喚起にとどまっており，教育支援者としての資質向上を図る体系的な研修（例：学生対応スキル，守秘義務，ハラスメント防止等）の実施に係る記述が確認できない。ＴＡ制度の質的向上を図る観点からは，研修の計画的実施や業務後のフィードバック体制の整備が今後の課題である，改善が求められる

令和６年度以降も大学設置基準が未充足の状態（令和７年４月１日現在，基準 56 名に対し専任教員数 53 名）にあり，採用活動が確実な充足につながっていない状況は，教員組織に関する事項の点検・評価の結果が改善・向上に十分に活用されていないという課題が継続していることを示している。この状況を改善するため，本学部は，人事委員会，教授会，国際関係学部自己点検・評価委員会及び国際関係学部内部質保証推進委員会が連携するＰＤＣＡサイクル図に基づき，教員組織の評価検証プロセスを強化する。

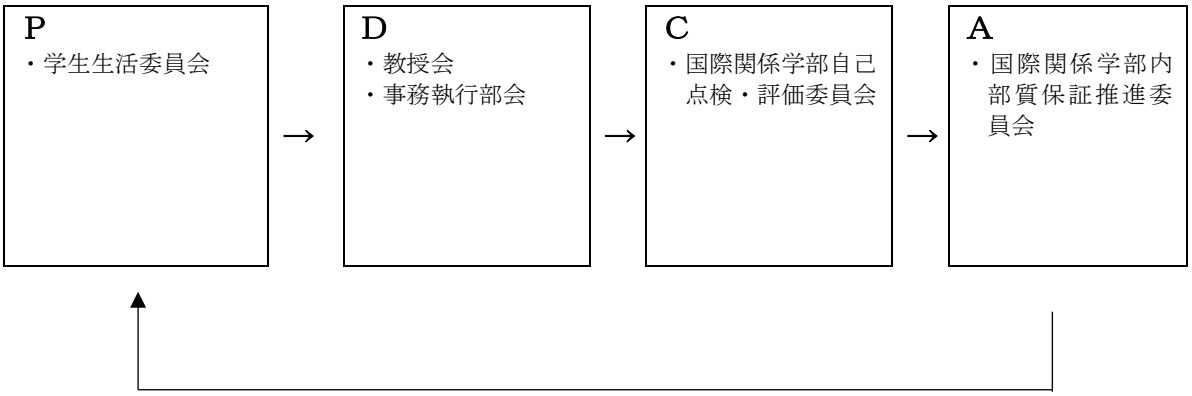
具体的には，人事委員会において採用辞退や欠員発生のリスクを考慮した迅速かつ多角的な公募戦略を策定（Ｐ）し，教授会の議を経て実行（Ｄ）するとともに，その採用活動の有効性について国際関係学部自己点検・評価委員会が定期的に点検・評価（Ｃ）を行い，その結果を国際関係学部内部質保証推進委員会が検証・指示（Ａ）することで，次年度の計画改善へと確実につなげる体制を確立する。また，教員組織の年齢構成や専門分野のバランスの是正に加え，特に提言されているジェンダーバランスの是正（女性教員の採用強化）を組織的な改善課題として明確に位置付け，数値目標の設定や採用プロセスにおける多様性の確保を推進する。

さらに，教員組織以外の改善課題についても同様のサイクルで取り組むこととし，教職それぞれの役割分担について，各委員会等における責任の所在を体系化することで，業務の属人化や判断の不統一による非効率を解消し，組織的な教育研究活動の継続性を確保する。あわせて，教育支援者の資質向上を図るため，従来の業務説明にとどまらず，学生対応スキルや守秘義務，ハラスメント防止等に関する体系的な研修プログラムを策定し，計画的に実施するとともに，ＴＡ制度については，事前の計画的研修の実施に加え業務後のフィードバック体制を整備することで，組織的な教育支援体制の質的向上を図る。これらの取組を通じて，教員組織に関する事項のＰＤＣＡサイクルを実質的に機能させ，教員設置基準の確実な充足と教員組織の質の継続的な改善を目指す。

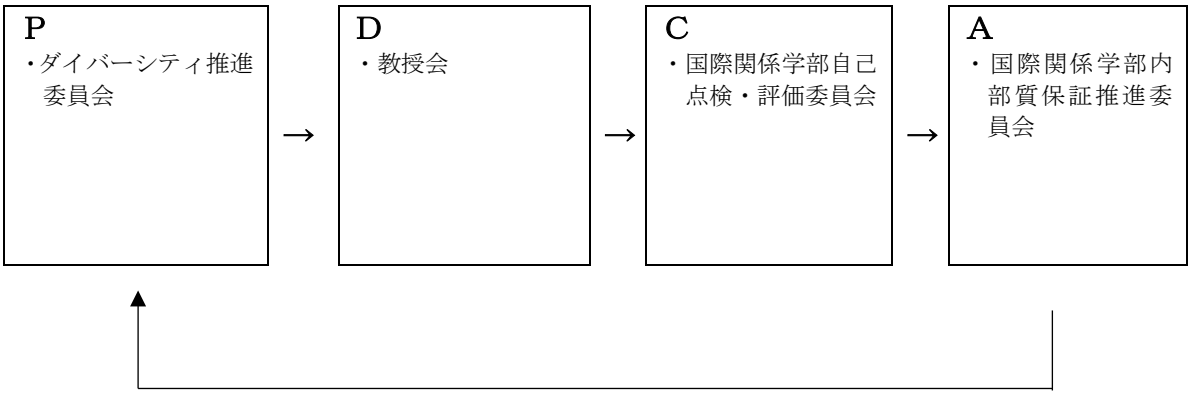
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

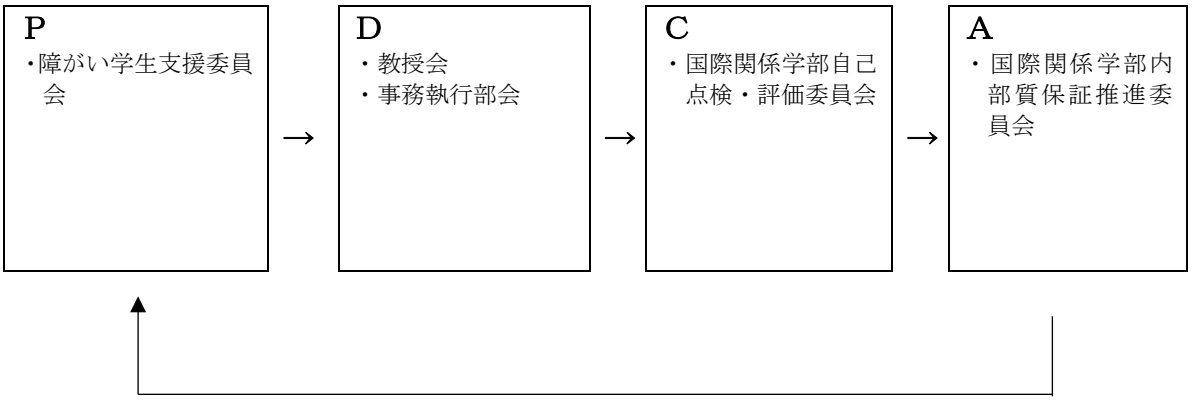
【学生の交流機会の確保，正課外における部活動及びボランティア活動の活性化】



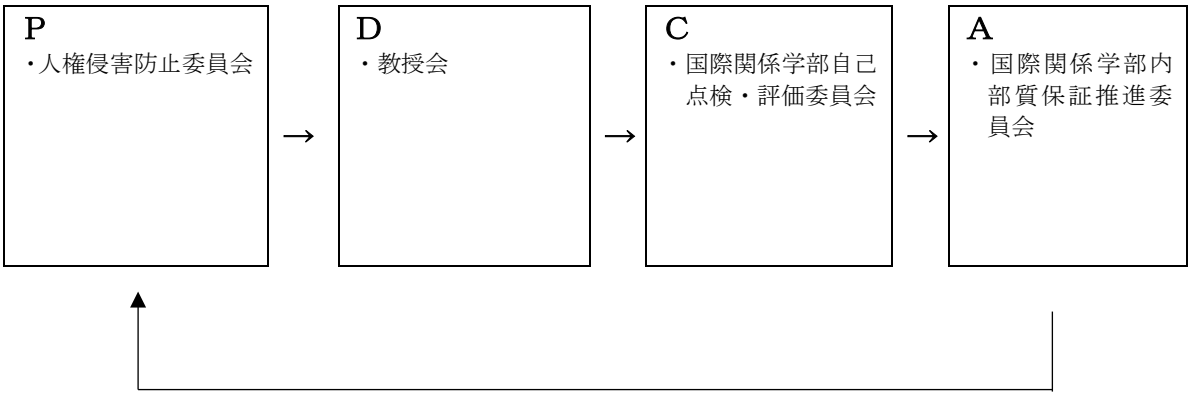
【学生に対する経済的支援（三島市による生理用品の支援)】



【障がいのある学生の基本的人権の保障】



【学生へのハラスメント防止，学生のプライバシー権の保障】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和６年 10 月４日に国際関係学部自己点検・評価委員会，令和６年 10 月 11 日に国際関係学部内部質保証推進委員会をそれぞれ開催し，学生支援に関わる事項について，点検・評価を実施した。

学生支援の向上を図った事例として，本学部では，令和７年度から「キャンパス活性化」というスローガンを掲げ，その一環として学生の正課外における部活動及びボランティア活動をバックアップする取組を開始している。具体的には，音楽活動や演劇活動を行う学生団体を支援する目的で，三島駅北口校舎の大教室用に，高性能の音響機器を導入した。また，ボランティア活動については，外部から募集が寄せられた際，本学部学生の派遣を依頼する内容のものについては，学生生活委員会で審議に諮り，その安全性や活動意義を精査した上で周知するようにし，学生に安心してボランティア参加してもらえるよう，募集受付から周知までの仕組みを見直した。

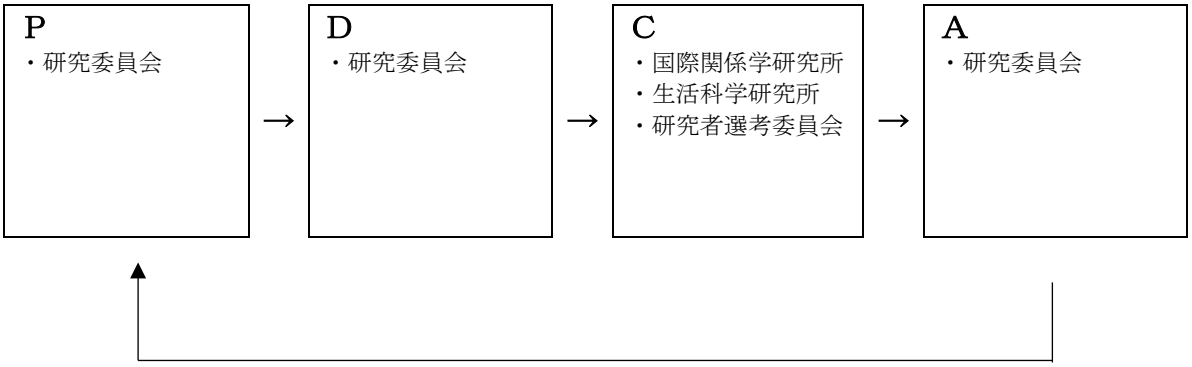
また，留学生と日本人学生の交流を目的として開催している異文化交流会について，以前は後学期に開催していたが，留学生の増加に伴い，学生同士が入学後早期に交流の機会を得られるよう，令和７年度は開催日程を前学期に変更した。その結果として，同時期に受け入れている海外提携校からの短期留学生も参加できるようになり，交流の幅が広がった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

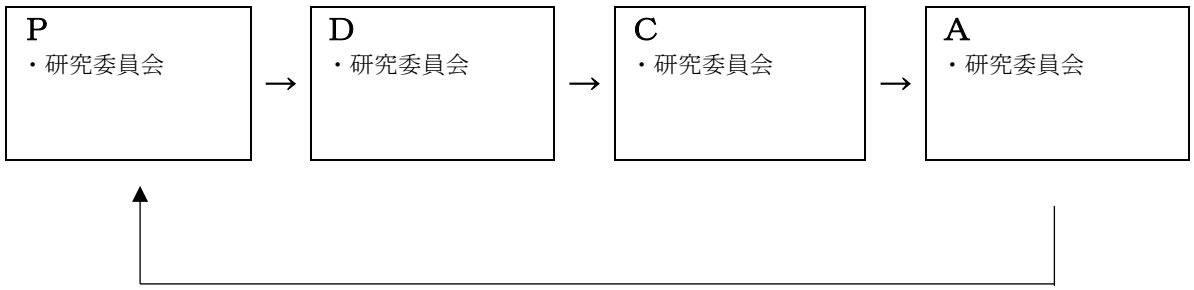
本学部研究者選考委員会で新年度の学部個人研究費申請書の内容を審議し，研究実施状況及び成果物については国際関係研究所・生活科学研究所において点検の上，本学部研究委員会で必要に応じて各研究所の点検結果にて検討が必要な事項や科研費採択時の懸案事項を検討し，改善策を計画し実行に移している。過去の事例としては，キャンパス内の共同研究を推進するために共同研究費を制定した上で，共同研究採択者に科学研究費助成事業への申請を義務付けることで改善を図った。また，個人研究費の給付額に傾斜配分を導入することでインセンティブを付した。当初はこの導入により，増額要件である科研費の申請件数に増加がみられ，今年度についても昨年度に比べ微弱ではあるが，申請件数が増加した。しかし，採択件数は昨年度より減少したため，採択件数増加の改善が必要と考える。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

地域社会への連携・貢献事業の開催内容については，研究委員会で点検・評価を実施している。点検・評価の対象となるものは，地域住民を対象とした「市民公開講座（前期・後期に各４回)」や「エクステンション講座（前期・後期に各講座５回)」であるが，次回以降の内容を充実させるため，毎回講座終了後には受講者へのアンケート調査を実施している。その結果を研究委員会で精査し，次回以降の講座の企画立案に反映させるように努めている。アンケートからスポーツ関連の技術向上を目的とした講座を開講してほしいとの要望を受けて，令和６年度より取り入れた「エクステンション講座」の「ゴルフ講座」は，受講者に好評で，次年度以降の開講と参加を希望する意見が多数出された。また，受講者からの要望や講座をお願いしている講師の提案に基づき，今年度後期は初級よりレベルアップした「エクステンション講座」を用意したが，受講者数が減少したため，研究委員会にて開講内容を精査し，より多くの参加者に興味を持ってもらい，参加していただけるような内容とすべく，改善・向上に努めることとする。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし